

交渉速報 (要旨) 申24号「2023年度冬期検証に関する申し入れ」①

1. 12月1日～3月31日まで只見線のホーム除雪体制をとること。

●会社回答：ホーム除雪については、気象情報等を勘案して対応しているところである。

会社→冬期の除雪体制は12月から3月中旬まで、テンポラリースタッフ・委託業者・直営の社員にて除雪を行っている。

組合→3月末日までの体制にはならないのか？

会社→外部による除雪は契約条件で厳しいものがある。冬期前と3月中旬以降は支社と長岡統セ社員で除雪体制を取っていく。

組合→3月下旬での降雪でも体制は万全なのか？

会社→体制はしっかりと取っているとの認識である。

2. 石打～岩原スキー場前間になだれ防止柵を設置すること。

●会社回答：なだれ防止柵については、地形等を考慮し設置しているところである。

会社→上越線では合計1,700mになだれ防止柵を設置している。防止柵があれば列車の徐行をしなくても良い。

組合→今後のなだれ防止柵の設置計画はあるのか？

会社→新たになだれ防止策の設置は考えてはいない。なだれに関するガイドラインが本社から出されている。さらなるハード対策ができれば徐行での対策はなくなる。現行では徐行を実施しての対策となっている。雪が少ない場合は徐行を実施しない場合もある。

組合→なだれに対する徐行を実施するのであれば、雪を抱えて駅間停車しないように万全な除雪体制を求める。

会社→認識は一致できる。

3. 長岡駅南部留置については12月1日～3月31日まで全ての車両を庫内留置及び冬期体制をとすること。

●会社回答：長岡駅構内（南部構内含む）の留置については、気象情報等を勘案し検討しているところである。

会社→今冬期での留置体制は2月末までとなっている。

組合→庫内留置を行っての効果はどうか？

会社→効果はあったと認識している。社員からの評価も得ている。

組合→庫内留置の目的は何か？

会社→長岡車セが廃止になって、車両の屋根上除雪等に检修社員が対応できないため。

組合→新潟車セは3月のダイヤ改正まで冬期対応を行っているが合わせることは？

会社→統一したい考えはある。検討したい。

4. E653系水管凍結対策の効果について明らかにすること。

●会社回答：必要な車両改修を行ったところであり、昨年度冬期においてはE653系の水管凍結対策により凍結は発生しなかった。

組合→実際に凍結は発生していると思うが？再度の確認を求める。

会社→実際には1件発生していたことを確認した。現行の対策は凍結を防止するものではなく、凍結による破損を防止するものである。効果はあったと認識している。

組合→今後、さらなる改良は考えているか？

会社→ヒーター等の設置により凍結しても早く溶かせるような機能向上を検討している。